



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 90) uniwish17号 (2015年6月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
FBページ <http://www.facebook.com/unicef.saga>



ネパール大地震緊急募金 第16報

ネパール大地震から1カ月

【2015年5月25日 カトマンズ発】

栄養状態の悪化を懸念 ユニセフ、雨期を前に支援を加速

ネパールを襲った最初の大地震から今日で1カ月。ユニセフ（国連児童基金）は、被災した子どもたちの栄養状態の悪化を食い止めるため、およそ7万人の5歳未満児に緊急の栄養支援が必要であると発表しました。



© UNICEF/PFP2015-3053/Panday
被災したバクタブルの町を歩く親子。

緊急に栄養支援を必要とする子どもたち

最も被害の大きかった14郡では、およそ1万5,000人の子どもたちが重度の急性栄養不良に陥っており、栄養治療食（栄養価が高く、すぐに口にすることができるピーナッツを原料としたペースト状の食品等）の支援が必要だとみられています。さらに、中度の急性栄養不良状態にある5万5,000人の子どもたちにも、栄養補助食品とケアによって、再び健康に成長・発達できるような支援が必要です。

「地震が起きる前から、ネパールの子どもの10人に1人以上が急性栄養不良に、およそ10人に4人が慢性的な栄養不足によって発育障害に苦しんでいました。今回の震災によって、過去数年をかけて達成してきた栄養分野の改善が後退し、子どもたちの栄養状態が更に悪化してしまうことを、大変心配しています」とユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫は報告しています。「私たちは、子どもたちの命を守り、まもなくやってくる雨期に心配される、汚水に起因する病気などに負けないよう、通常の2倍のスピードで栄養支援を展開しています」

栄養不良から子どもたちを守る、ユニセフの支援

ユニセフは、ネパール国内外のパートナー団体や政府とともに、下記のような包括的な栄養支援を行っています。

- 命を守る支援として、2歳未満の子どもへの母乳育児を促進し、哺乳瓶の使用を抑制するよう働きかけています。
- 12万人以上の子どもたちに必須微量栄養素を提供し、母親たちには、幼い子どもへの栄養の与え方などに関するカウンセリングを実施しています。
- 被災地域で、重度の栄養不良の子どもを見つけ出すための調査を支援しています。
- 3,000人以上の重度の急性栄養不良状態にある子どもたちに、すぐ口にすることができる栄養治療食を配布しています。
- ラジオ・ネパールや111の地方および民間のラジオ局を通じ、38万世帯に対して、妊産婦や子どもへの栄養に関する大切な情報を放送しています。
- 雨が降り出す前の6月中旬に、ビタミンAや虫下し剤など6種の栄養支援をパッケージにして届ける栄養支援キャンペーンを35万人の子どもを対象に行う予定です。



© UNICEF/PFP2015-3067/Karki
ボランティアの保健員が栄養状態の検査をする様子。

緊急の人道支援が必要な子どもも170万人

地震で被災した20以上の郡では、170万人の子どもたちが依然として緊急の人道支援を必要としており、長期にわたって身体的および精神的に影響を受ける危険が高まっています。

「ユニセフは、既に都市部や農村部で、瓦礫から舞い上がる埃による呼吸器系疾患など、慢性疾患の増加を確認しています」と穂積代表は続けます。「また、地震による怪我により、長期にわたって障がいを抱える子どもや、精神的に不安定になる子どももいるでしょう」



◦ UNICEF/NYHQ2015-1199/
ユニセフが支援する「子どもにやさしい空間」で笑顔を見せる子どもたち。

大地震から1カ月、ユニセフの支援

この1カ月にわたり、ユニセフは子どもたちを救う緊急の支援として、以下の支援を実施しています。

- 30万5,109人が安全な水を、4万5,201人が清潔なトイレや手洗い場をえるよう支援しました。
- 避難している子どもたち1万人を対象に、“子どもにやさしい空間”を設置しました。
- 9,000人近い子どもと2,000人以上の保護者に、応急的な心理社会的支援を行いました。
- 6カ月～59カ月の乳幼児3,000人に、被災したほとんどの地域で、はしかや風疹の予防接種キャンペーンを実施中です。

子どもたちが明るい未来を取り戻せるように

穂積代表はまた、「多くの支援を行いました、まだ更に多くの支援ニーズがあります。ネパールの復興への道は、長く、困難です。しかしユニセフは、どんなに長くかかっても、ネパールの子どもたちがよりよい生活と明るい未来を取り戻すまで、この地で支援を続けます」と語りました。

「私たちは、あらゆる手を尽くさなくてはなりません。なぜなら、私たちが今実施する支援は長期的な成果をもたらすものであり、更には次の世代にも影響を与えるものだからです」



◦ UNICEF Nepal/K. Page
倒壊した家屋の間をがれきをよけながら移動する女の子たち(ドラカ郡で)



◦ UNICEF/PFPG2015-2806/Page
ダジン郡の被災地に設置されたユニセフの「子どもにやさしい空間」で縄跳びをとぶレジナちゃん(10歳)

ユニセフ・ネパール事務所代表：穂積智夫氏からのメッセージ

(5月2日)

日本のみなさま。ユニセフ・ネパール事務所代表の穂積智夫です。ネパールは、4月25日に発生した大地震で、甚大な被害を受けました。被災した各地で電気や通信、交通網が遮断され、その全容はまだ明らかになっていませんが、かなりの範囲にのぼることが想定されます。

ネパールの子子どもたちは、大地震が起こる前から、健康や栄養面で様々な困難に直面していました。災害への備えも十分ではない中で発生した大地震は、その困難をさらに増幅させました。約170万人の子どもたちが、今、支援を必要としています。

ユニセフ・ネパール事務所のスタッフ自身も被災者です。でも、地震発生以降、みんな不眠不休でがんばってくれています。

ぜひ、日本のみなさまのお力添えをお願いいたします。





- 1月28日 (水) ユニセフ出前授業 (ドリームパーク背振小学校)
「やってみよう ボランティア」
- 1月30日 (金) ユニセフ出前授業 (福岡県大木町立大溝小学校)
6年生 テーマ: 社会科「世界の人々とともに生きる～ユニセフの働き～」
- 2月6日 (金) ユニセフ出前授業 (鳥栖市 弘堂国際学園)
アジアからの留学生 プロジェクトワーク「世界の子どもたちとユニセフ」
- 2月11日 (水) イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン
- 2月17日 (火) ユニセフ学習 (佐賀県立ろう学部中学部) 「ユニセフとわたしたちにできること」
- 2月21日 (土) 佐賀県ユニセフ協会 理事会・評議員会 (佐賀新聞社)
- 2月27日 (金) ユニセフ募金贈呈 (上峰町立上峰小学校)
- 2月28日 (土) トヨタ紡織九州レッドトルネード募金活動 (佐賀県総合体育館)
- 3月2日 (月) ユニセフ出前授業 (大川市立大川小学校)
6年生社会科・総合的学習の時間: テーマ「ユニセフについての理解を深めよう」
- 3月4日 (水) ユニセフ出前授業 (ドリームパーク仁比山小学校ほし組) 「平和を考えよう」
- 3月8日 (日) ユニセフ語り場 (佐賀市立図書館大集会室)



- 「3・11から4年 ～わたしがみた被災地の今～」
- ①「気仙沼ユニセフ祈りのビッグツリー」 佐賀県ユニセフ協会
- ②「被災地支援から見えたこと」 佐賀県防災士会 本山和文氏
- ③「今までも、これからも。私たちがもらったもの。」
ユープさがみやぎ支援サガンねっと
- ④「届けよう、佐賀の声を。」
気仙沼の復興屋台村きずな広場の七夕飾りに飾ろう

- 3月12日 (金) J A 佐賀県女性組織協議会
「愛の募金」贈呈式 (佐賀新聞社)
- 3月26日 (木) ユニセフ募金贈呈
(北部児童センター: 佐賀市大和町)
- 4月11日 (土) イエローレシートキャンペーン贈呈式
(イオン佐賀大和店: 佐賀市大和町)



活動詳細



佐賀県ユニセフ協会は、ネパール大地震の被害を受けた子どもたちを支援するための「ネパール大地震緊急募金」に取り組んでいます。

○ 5月2日（土） ゆめタウン佐賀店（佐賀市兵庫北）

真夏のような汗ばむ暑いお昼下がりでしたが、6人のボランティアの皆さんは大きな声でお買い物の客様に「ネパール大地震緊急募金」のご協力を呼びかけました。

募金箱にお気持ちをお寄せくださったお客様からは、「ご苦労様です。」「頑張ってください。」などのあたたかい言葉もいただきました。ご協力いただいた募金額は59,135円でした。



○ 5月3日（日） 有田陶器市会場 今右衛門窯前

前日とは違って変わって朝から終日の雨。しかし、今年で112回目を迎える伝統の有田陶器市会場は15万人の焼き物ファンで賑わいました。

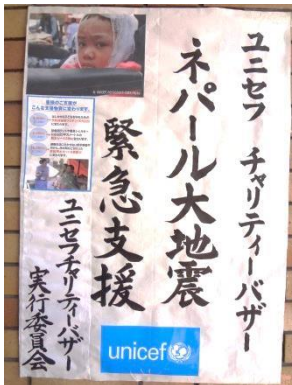


佐賀大学、西九州大学、小城高校、他、総勢17名のボランティアさんは、雨にもめげず元気よく声を揃えて「ネパール大地震緊急募金」の呼びかけをしました。

「雨の中をご苦労様。」
「ネパールに寄付しようと思っていたのでここでちょうどよかった。」
「マンスリーで応援していますが、気持ちだけ。」
等と多くの皆様からご協力をいただきました。
ご協力いただいた募金額は、237,154円でした。



- 5月24日（日） 佐賀玉屋デパート 南館アーケード（佐賀市中の小路）
チャリティーバザー&街頭募金



佐賀玉屋南館アーケードにて、ネパール大地震緊急支援チャリティーバザーを開催しました。会場には県内外の個人様や企業様からお寄せいただいたバザー品およそ1,200点が並びました。高校生や佐賀県ユニセフ協会の会員など計38名のボランティアの方々にご協力いただき、バザー品の販売や街頭募金活動を行いました。特にバザー開始直後は大人数のお客様で賑わい、会場は熱気に包まれました。

バザーの売上と募金の合計は、181,963円にもなりました。全額、ネパール大地震緊急募金に充てさせていただきます。バザー品をご提供くださった皆様、お買い物をしてくださったたくさんのお客様、会場をご提供くださった佐賀玉屋デパート様、そしてボランティア協力をしてくださった皆様、大変ありがとうございました。





ユニセフって なあに？



ユニセフの活動

ユニセフは世界の子どもたちが生存し健やかに成長できるよう、他の政府機関や各国政府、NGOなどと協力しながら活動を行っています。

前号では、ユニセフの5つの特に重要な分野と緊急支援を合わせて6つの分野があることをご紹介します。

今号から、その一つ一つについてご紹介します。

1. 十分なケアを乳幼児に ～子どもの生存と成長～

世界で5歳の誕生日を迎えることなく亡くなる子どもは年間630万人。その原因の多くは安全な水やワクチンがあれば防ぐことができるものです。

ユニセフは、全ての子どもが、乳幼児期に十分なケアを受け、守られより良い人生のスタートを切ることができるよう、予防接種の普及、安全な水や衛生的な環境の確保、母乳育児の推進、栄養改善など総合的な支援を行っています。



©UNICEF/NYHQ2012-2266/Markisz

肺炎 下痢 マラリア

先進国なら助かるはずのこの3つの病気が、世界の5歳未満児の死因の1/3を占めています。このうち、肺炎と下痢で命を落とす子どもの実に99%がアフリカや南アジアなどの貧しい地域に集中し、マラリアによる死亡の9割以上がアフリカ諸国に起きています。



医療施設から遠く離れたソロモン諸島の村で、2歳のジェニーが肺炎による呼吸困難に苦しんでいます。風邪に似た症状のため見過ごされ、手遅れになってしまったこと多い肺炎は、幼い子どもの命を最も多く奪っている病気です。



パキスタン南部の村で、汚れた水を飲んで下痢になってしまった3歳のシマ。下痢という、先進国ではまず死に結びつくことのない理由で、毎日1,500人以上の幼い子どもたちが命を落としています。



生後10カ月のダリヤが、マラウイの診療所でマラリアの治療を受けています。何時間も続いた高熱のため意識が薄れ、泣く力も失って生死をさまよっています。今も1分に1人、幼い命がマラリアにより失われています。

肺炎
手遅れになる前に
抗生物質

下痢
ORSで
脱水症を改善

マラリア
すべての家庭に
蚊帳を

- 1日に約1万7,000人（約5秒にひとり）の5歳未満児が命を落としている。
- 1990年、出生1,000人あたり90人の5歳未満児が死亡していたが、2013年にはその数が出生1,000人あたり46人に減少。年間の5歳未満児死亡数は、1,270万人(1990年)から630万人(2013年)に減少。
- 2013年現在、1990年と比較して、毎日約1万7,000人の5歳未満児の命が守られている。



ご支援 ありがとうございます

トヨタ紡織九州(株)レッドトルネード様 大溝小学校様 ユニセフを支援する会：母子草様
大川小学校様 上峰小学校様 マリアヴェール様 芦刈観瀾校中学部様 北部児童センター様
コープさが生活協同組合様 J A佐賀県女性組織協議会様 材木町長寿会ご一同様
ボーイスカウト佐賀第5団様

富士町ぬくもりの会様 佐賀県学校生活協同組合様 旅館あけぼの様 佐賀清和高等学校様
国際ソロプチミスト佐賀西部様 リコージャパン株式会社佐賀支社様 佐賀玉屋様

門司歯科医院様 佐賀県家庭クラブ連盟様 佐賀新聞社様 からつ医療福祉センター様
JSA中核会佐賀支部様 佐賀県骨髓バンク推進連絡協議会様 佐賀県国際交流協会様 (株)ミゾタ様
高齢・障害求職者雇用支援機構様 おうちカフェどこふく風?様 ようどう館佐賀校様
唐津市民病院様 佐賀県立ろう学校様 基里小学校様 佐賀リハビリテーション病院様
大塚製薬佐賀工場様 ヘルスランチあららぎ様 さが市民活動プラザ様 副島病院様 今右衛門窯様
神崎市ドリームパーク様 佐賀大学産学官連携推進機構様 諸富北小学校様 大町聖太鼓の会様
佐賀大学医学部管理研究棟様 佐賀県商工会連合会女性部様 附属小学校トカリス様
グランデはがくれ様 (株)イワフチ様 九州電力佐賀支社様 西与賀公民館様 循誘公民館様
佐賀県婦人会館様 千代田中部小学校成人教育委員会様 カイセイ薬局伊万里駅前店様
立正佼成会佐賀教会様 青年の日実行委員会様 佐賀大学スーパーネット様 ゆめタウン佐賀店様
城北中学校人権委員会様 (2015年1月25日～2015年5月26日)

☆ いろいろな形でのご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。個人の皆さま方からも
たくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・
団体様等のみにさせていただきます。



これからの予定

- 6月9日(火) 30日(火) 7月11日(土) 7月38日(火) ユニセフボランティア講座
※詳細については、同封のチラシをご覧ください。
- 6月13日(土) ユニセフ出前授業 中村学園三陽中学・高等学校(福岡市)
- 7月14日(火) 国際キワニスクラブ佐賀 ユニセフ卓話 (グランデはがくれ)
- 7月30日(木) 「ピースアクション2015」にてパネル展 (アバンセホール)

- **8月4日(火)** **夏休み特別企画：夏休みの自由研究にピッタリの実験教室 !!**
13:00～15:00
「ボルビックお水の教室」
会場：さが水ものがたり館(佐賀市大和町尼寺3247)
対象：小学校高学年児童と保護者 20組 (お申し込み先着順)
講師：野田岳仁先生

参加費：無料

ゆたかな水と人とのかわりを
未来につなげていくことをめざす!!
楽しい実験、絵合わせゲーム等

profile NPO法人Waterscape代表
立命館大学政策科学部助教
青山学院大学・駒沢女子大学非常勤講師
早稲田大学教育コーチ

- 9月16日(水)～23日(水) ユニセフ写真パネル展 佐賀市立図書館 2階ロビーギャラリー
長谷部誠選手が見た、感じた「レジリエンス」

コープさが生活協同組合会長 干潟由美子さん (50歳) (佐賀市)



コープさが生活協同組合の会長をしております干潟です。先日、ニューヨークの国連本部で開かれた核拡散防止条約（NPT）再検討会議に合わせて、コープさが生協の代表として国連本部に行って参りました。NPT再検討会議は5年に1度開かれているのです。わたくし自身、はじめてのニューヨーク、初めての海外でした。緊張と責務を胸に、4月24日、「No more war」など反戦のメッセージ入りの折り鶴約100羽と、平和の願いを書き込んだ法被を持って、成田から直行便に乗り込みました。

現地では各国のNGOと共同集会やパレードに参加し、一緒に渡米した被爆者の方々が歴史を学ぶ高校生たちにむけて証言を行う際のお手伝いもさせていただきました。そして国連本部のロビーで開催した「原爆パネル展」はスタッフである私にとっても非常に印象深い経験でした。

広いロビーに並べられた原爆投下の写真。焼き尽くされた長崎・広島風景が展示されたほか、今年は例年以上に目を背けたくくなるような子どもたちの写真なども多く展示されたのです。中でも息絶えた幼子を背に負い、口を真一文字に凜とした姿で焼き場の順番を待つ少年の写真には足を止める人が多かったです。気丈に順番を待つ彼ですが、噛みしめた唇からは血が出ていたそう…もはや表現できない思いがこみあげてきました。これはアメリカ軍のカメラマンが撮った一枚だそうです。原爆の被害の“記録”としてシャッターを切っていたのですが、徐々に風景の記録写真から“人”にカメラが向いたのでしょうか…。何年も何十年も封印されていた写真がわたしの心をしめ付けました。

二児の母ですが、振り返れば我が子が2、3歳のとき…コープの組合員のときにユニセフと出逢いました。そこで、女子教育の話、カースト制度の話、難民の話の話を聞きました。世界について知らなければ学ばなければと感じました。今回のニューヨーク国連本部訪問もそうですが、知ることでバトンを受け継いだからには行動に移していかなければならないと思いました。未来の平和のために、大人が子どもたちに伝えていかなければなりません。コープさが生協としても、家庭の中にそうした会話ができるきっかけを提供していきたいですし、親としても、そして社会の一員としても私のできることから考え行動していこうと、肌寒いニューヨークの中で決意しました。



取材
高原陽子